

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称	第2回 豊島区商工政策審議会	
事務局（担当課）	産業観光部 産業振興課	
開催日時	令和7年6月18日（水） 10時00分～11時30分	
開催場所	あうるすぽっと3階 会議室B	
議 題	1. 開会 2. 議題 (1) 令和7年度豊島区産業振興施策の取組について (2) 産業振興施策の方向性について ・ 中小企業の経営基盤の強化策 ・ スタートアップ支援 3. その他 4. 閉会	
配布資料	《資料》 資料1 令和7年度 重点事業概要 資料2 スタートアップ支援について 《参考》 参考1 豊島区商工政策審議会委員名簿 参考2 豊島区基本計画ミニブック・当初予算ミニブック 参考3 豊島区産業振興指針 令和6年度取組状況一覧 参考4 としまビジネスサポートブック 参考5 令和7年度豊島区融資あっせんのご案内 参考6 令和7年度中小企業支援事業補助金のご案内 参考7 豊島区商工政策審議会スケジュール	
公開の 可否	会議	公開 傍聴人数0人
	会議録	公開
出席者	委員	郭 洋春、鴨田 和恵、井上 里絵、藤川 盛弘、千野 富久、鈴木 但、大澤 豊、森本 記代、金子 実和子、前原 一仁、小木曾 隆子、渡邊 圭介
	その他	産業振興課長
事務局	産業振興課	

# 審議経過

## 【開会】

産業振興課長： 定刻となりましたので、令和7年度第2回豊島区商工政策審議会を開催したいと思います。本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は産業観光部産業振興課長の根原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の資料につきましては、お手元にご用意をさせていただいております、次第をご覧くださいと思いますが、配布資料という形で、参考資料の参考1から7を準備しております。過不足等がございましたら、お近くの職員までお申付けいただければと思います。また、開会に先立ちまして、いくつか申し上げさせていただきます。本日は、議事録作成のためのAIを活用した録音機材を机上に置いております。録音された音声データは暗号化された上で、外部のクラウド環境に転送されますが、個人情報など重要情報の発言は控えていただければと思います。

それでは初めに、参考資料1 豊島区審議会委員名簿をご覧ください。豊島区商工政策審議会委員名簿ということで、昨年の令和6年9月9日から来年の9月までを任期とした委員名簿が記載されております。ここで、人事異動により新たに委員としてご就任された方をご紹介します。

### ～新規就任委員紹介～

次に、前回第1回の審議会にご欠席されまして、今回初めてご出席いただいた委員をご紹介します。

### ～前回欠席委員紹介～

ありがとうございました。では議題に入ります前に、郭会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。郭会長、よろしくお願いいたします。

会 長： 皆さんおはようございます。本日は令和7年度の第2回豊島区商工政策審議会にご参加いただきまして、ありがとうございます。昨日あたりから非常に気候も暑くなりまして、都内でも昨日は154名の方々が熱中症で運ばれるということで、本当に毎年気候が不安な状況です。

そして、世の中を見ても、非常に錯綜とした状況が続いていると考えております。世界では、昨日はサミットがあったにも関わらず、アメリカの大統領が途中で欠席して強行するということがあり、また国内を見れば、物価高騰だけではなく、米が足りないということがあります。こういう庶民生活に直撃するような様々な状況の中で、豊島区として今後どのような政策を行うか、ということが非常に大事になってくると考えております。私事で恐縮ですが、私先週末に仕事で大阪に行ってきたのですが、大阪に向かう新幹線はインバウンドの観光客で大きなトランクを持った人がたくさん乗っておりまして、大阪の街は人が歩けないぐらいの状況でものすごく賑わっていました。非常に活気づいているなど感じる一方で、やはり今は国とか政府に頼るだけではなくて、それぞれの街や地域が中心になって動かないと、こういう厳しい状況はなかなか乗り切れないのかなど、改めて実感した次第であります。私の好きな言葉ですね、「一隅を照らす、此れ則ち国宝なり」という言葉があるのですが、まさに世の中の片隅で頑張っている人、頑張っている組織に目を向けることが、実はそれが世の中全体を正し、より良くすることにつながると感じています。先ほどの言葉は最澄の言葉なのですが、まさに豊

島区が行おうとしている、こうした商工政策審議会のような一つ一つの活動が、地域の人々に活力と勇気を与え、そしてそれが23区に広がり、東京、そして日本全体を活気づけていくのかなと思っております。

本日は2回目という事でございますけれども、本日も皆様方から貴重なご意見を賜ればというふうに考えておりますので、短い時間ではございますけれども、最後までご協力のほど、よろしくお願いいたします。

産業振興課長： ありがとうございます。それでは、これより議題に入らせていただきます。以降の進行につきましては、会長に移らせていただきます。会長、よろしくお願いいたします。

### 【議題】

#### (1) 令和7年度豊島区産業振興施策の取組について

会 長： まず議題に入る前に、会議の公開についてお諮りしたいと思います。本日もご審議をいただく内容につきましては、多くの市民の皆様にご理解いただくため、会議および会議録を公開したいと考えております。豊島区では審議会などの会議は原則としても公開としており、これまでの会議および会議録も全て公開してまいりました。本日の会議も公開したいということでございますが、よろしいでしょうか。

～一同賛同～

なお、会議録の公開につきましては、個人が特定されないよう事務局では細心の注意をお願いしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、傍聴者の確認に入らせていただきたいと思います。

産業振興課長： 傍聴希望者はありません。

会 長： 傍聴希望者無しということで、承知しました。

では、早速議題に入らせていただきます。今回の議題は二つでございます。「(1) 令和7年度産業振興施策の取組について」、「(2) 産業振興施策の方向性」でございます。これらにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

産業振興課長： (議題(1)について、参考2を基に説明)

商工政策グループ係長： (議題(1)について、資料1、参考3を基に説明)

会 長： お2人の方からのご報告がありましたけれども、ミニブックを拝見すると、非常にイラストがたくさんあって、見やすい作りになっているなど感じまして、より多くの区民の方々に周知するという思いが伝わるなどと思います。指針に基づいた令和7年度の重点事業ということでは、新たな取組みも含めて着実に産業振興計画を進めているということを実感させていただいております。では、続きをお願いいたします。

経営支援グループ係長： (議題(2)「中小企業の経営基盤の強化策」について、参考4、5、6を基に説明)

スタートアップ支援グループ主査： (議題(2)「スタートアップ支援」について、

資料2を基に説明)

会 長： ここで委員の皆様より、議題2の二つのテーマ、「中小企業の経営基盤の強化策」並びに「スタートアップ支援」につきまして、これまでの事務局からの説明を受けて、皆様方からご意見をいただきたいと思っております。お1人ずつご意見をいただきたいと思っておりますけども、時間の都合上、お一人2分程度で、ご意見を賜ればと考えております。なお、ご発言の中でご質問やご提案いただいた場合には、後程まとめて事務局の方から回答させていただきたいと思っておりますので、あらかじめご了承いただければと思います。それでは、お座りの順番でよろしいでしょうか。

委 員： まずは、補助金についてですが、いま中小企業は人材が不足してしまっていて、給与とか処遇については割と大企業と変わらないところが多いのですが、やはり実際に求人募集しても来ないことが多いです。皆さん大企業に行くことが多くて、できれば新卒を取りたいと中小企業が思っているにもかかわらずなかなか難しいところで、中途の方、またこれからは外国人の方を採用していかなくてはいけないのかなというところを、やはり検討しつつある企業が増えています。その場合に、在留資格などの問題もあるのですが、それを解決しながら推進していくのだと思います。また、ここに経営安定コースや人材育成という文言があるのですが、先程リスクリングの話がありましたけれども、具体的にどんな形で支援をしていけばよいのかということを考える必要があります。デジタル化推進、DX促進の施策ですが、中小企業もDXはしっかりやっていかなくてはいけないので、先ほどソフトウェアの話などが出ましたが、そのあたりはずっと補助金で支援していただければと思っています。

あと、スタートアップ支援ですが、私は「女性のための起業塾」をやっていますけれども、それはこちらの資料で言うところの左側の「一般的な起業」の話です。スタートアップというと、経営者の方は、どちらかというとIPOを3年ぐらいで目指すところを支援していくのですが、果たして豊島区で資料の右側の「スタートアップ」の方を支援できるのかということを考える必要があります。それと、スタートアップ支援というところで、アントレプレナーシップ教育として、税理士さんをお願いして大学に人を派遣して事業を行って、若い大学生の頃からそういう教育を行えば、少しは種まきになるのかなということなんです。私もよく日本政策金融公庫様から聞くのですが、若い方は発想も全然違うし、我々から考えると、こういうことをやるのですか、と感じるところがあります。だから、そういう若い方の負担を何とか少しでも軽減できるように支援していく、ということが重要なのかなと思っています。

委 員： あまり幅広い意見を言えず恐縮ですが、たまたま知り合いにアートをやっている若い方がすごく多くおまして、展示会に出すのに、大体2日間で30万ぐらいのお金を払うというのを先日伺ったばかりでしたので、この展示会出展コースが組み込まれたというのは、今後アートを豊島区が推進すること考えているのであれば非常に良い制度かなと思いました。でもこれは区内在住の方が対象だと思うので、その知り合いにおすすめるのはなかなか難しいのが現状です。あと、中小企業のお話がありましたけど、起業とか経営安定というのがありますが、私の肌感では、事業継承が今一番の問題じゃないかなと思っています。その辺に関して、事業継承のための支援になるような何か制度があ

るといいと思います。例えば、私の所属している商店会だと、世代が変わって相続が起きるとビルを手放し、歯抜けの土地ができたりするので、そういうときにうまく継承できるような何か支援策があるといいなと思いました。経営自体も大事ですけど、次世代、若い世代に継承していくというところに、もう少し支援策があるといいなというのが、今の私の肌感でございます。

委員： 今日こういった具体的な施策を教えていただきまして、私も知らなかったことがあったので、大変勉強になりました。ありがとうございます。その上で2点あります。

1つ目の「中小企業の経営基盤の強化策」ですが、実際に中小企業の方は、これから経営を進める上で、豊島区にはどういった顧客がいるのか、豊島区にどういった人が来ているのか、どういった人が働いているのかなどを知る機会というのはなかなか無いと思います。豊島区や弊社も参加している「池袋エリアプラットフォーム」という団体がございますが、そのこの団体の中で今、池袋周辺の顧客像を理解しましょうということになり、いわゆる人流分析として、実際にどんなお客様が池袋にきているのか、住んでいる人がどう回遊しているのかを分析しています。また、JCBさんのクレジットカードの利用状況から消費動向を分析するなど様々なデータを蓄積しています。各中小企業様の経営指針を見定める上で、何かご参考になったりするものがありますので、そういったところでエリアプラットフォームとして地元の中企業様とご一緒にやっていけると良いのかなというのが、一つ思っているところでございます。

2つ目の「スタートアップ支援」につきましてですが、例えば五反田とかもスタートアップが集積しているイメージがあります。何かしらスタートアップを集めるときに、その街にどういったスタートアップを特に集めていくことが重要なのかと思います。例えば五反田でしたらITが多いなど、どういった業種を集めていくのかということも一つ示していくと、池袋や豊島区のまちづくりとか、そういったもののブランドイメージ表現の1つにできるのかなと思っています。特に「こういった業種を強化しますよ」という旗を上げることを、敢えてやってみるのが面白いのではと思いました。

委員： 当社は池袋の西口でシェアオフィスは今2店舗運営しているのですが、そこで利用されている会員の方々には、スタートアップの方もいれば、個人事業主、10年以上活動されている方もいらっしゃいます。スタートアップの方に関しては、入ってきて最初に、金融機関での口座開設を苦労されているのをよくお見かけいたします。当社は巣鴨信用金庫さんとお取引がありますので、それをきっかけにご紹介をさせていただいて、口座開設に至るケースが多々あります。区が、ビジサポとかいろいろな機関でセミナーや経営支援をさせていただいていることはこの資料を見てもわかるのですが、一部わからない情報もありまして、全部のセミナーを受け終わるまでにどれだけの時間がかかるのか、また何回それを受けなきゃいけないのか、という情報が少しわかりにくいというように感じました。結構、口座を作ることを急いでいるケースが多く、せっかくこのような制度があるにも関わらず、どれだけ時間がかかるのかが見えないということは言われた記憶があります。

あとは、先ほどから話に出ているスタートアップの起業支援に関してですが、やはり豊島区の場所柄ものづくりの起業家はなかなか生まれにくい場所なのかなと思っておりまして、おそらく業種としては飲食店などが他の区に比べると多いエリアなのではない

か、というように感じております。概にスタートアップと言って、業種の幅を広くし過ぎるよりも、ある程度業界をピンポイントで定めて、その業種に合わせた支援策というものを何か提示してあげると、制度的には利用しやすくなるのではないかなというように思います。

委員： 私は物作りで起業をいたしました。当時ありがたかったのが、ISP さんに出店をさせていただくという区の取り組みです。池袋の人流のあるところで企画した商品をお客様に見ていただけるというのが、大変参考になりました。実際、お越しいただいたお客様のご意見に基づき商品開発をしたこともあります。また、豊島区役所 4 階に福祉施設で作られた商品が展示されているスペースがあります。審査を設けてよろしいと思いますが、人流のあるところにある一定の可能性のあるスタートアップの事業や商品を展示するスペースを設け、無人でも、そこで買っていただけるような仕組みがあってもいいのかなと思います。そのような場にはアンケートフォームを用意し、感想をいただけるような仕組みがあれば今後に活かすことができるのではないのでしょうか。千葉市の方にそういう取り組みがあると聞いております。

あと、先ほど外国人の方を多く呼び込むという話があったのですが、仕事で度々関西に行く事があります。先日京都で展示会がありまして、来場されるのは日本人なのですが、京都駅からその展示会会場に行くときに、基本的にバスを利用します。外国人の方々がバスを占有して、目的地に行くためにバスを何台も見送ることがありました。また、日本人が普通にアフターファイブで食事をしたいと思っても、外国人で一杯になってどこも入れないなど、地元住民の生活が麻痺していると聞きます。外国人を呼び込むのはいいのですが、京都の方々と話をしても、オーバーツーリズムになる前に事前に受け皿を作る、ということが自治体において必要なのではないかと思います。

また、MONO づくりメッセですが、会場がサンシャインシティの奥にありまして、池袋駅からのアクセスが不利だと感じております。加えて、MONO づくりメッセという名前であるのですが、食だったり、コスメだったり、伝統工芸だったり少し混在した印象です。ある分野にエッジを立てることで、集客的なところで工夫ができるのではないのでしょうか。

最後に、豊島区経営安定化コースの補助金の申請をさせていただきました。今年度は事前説明をいただけないなか申請受付の方法が変更となり、補助金告知前までに申込金を払ったイベントについては受付を認められないということがございました。年度初め頃の展示会出展の必要、早期申し込みによる出展費の割引制度など、補助金の運用は実際の中小企業のニーズに即した実施が必要であると感じました。

委員： まず、「中小企業の経営基盤の強化策」という点では、昨年度から作っていただきました、この中小企業展示会等事業補助金の補助対象に対して大変広範にさせていただいておりまして、大変使い勝手の良い補助金となり、我々もしっかりと周知に努めてまいりたいと思います。知り合いの事業所の中で知らない方も多と思うので、どんどん広めて行きたいと思います。ただ、これは対象をかなり広く設定していただいているので、逆に言うと誰でも使えるというか、普通に事業をやっていると結構使える対象になるのかなと思うところもあって、今後どんなところに実際に使われているのかとか、いつどんなところにニーズがあるのかというものを見ていながら、また何か新たな取り組み

を始めようとする方を後押しするような形で、補助対象は広げたり縮めたりですね、調整をしていただければと思いますし、そういった形で、ぜひ息長く続けていただきたいなというように思っております。

あと、中小企業経営基盤の強化の中で、最近出てきたなと思っているトピックとしては、家賃の高騰があるのではないかと考えています。我々の仲間でもですね、急にオフィスの大幅な賃上げを提案されて、なかなか区内にオフィスを維持するのが難しくなったなんて話もちらほら聞きます。もちろん区内事業者さんは大家さん側の方もいらっしゃるのですが、安ければいいというものではないとは思いますが、理不尽な値上げ交渉にはしっかり反応していきたいですね。逆に、大家さん側には適切な値上げをきちんとできるようになっていったら、そういった交渉をどのようにやればいいのか、ということその事業者さんに知らせたり、あるいは相談を受け付けたり、すぐに窓口の設置というわけではなくても構わないと思いますが、こういったニーズがどれくらいあるのかというところを踏まえて、家賃に注目した相談システムを少しご検討いただけるとありがたいかなと思うところがございます。

それから、「スタートアップ支援」ですが、何人かが既におっしゃられたとおりですけど、東京都内でも他の区ではスタートアップはある程度集積されているところもあります。例えば、五反田の話がありましたが、渋谷でもかなり IT 系企業が集積されているということがありますし、あとは区の事業ですが、港区では産業振興センターでビジネスサポートファクトリーを田町に作られていて、かなり広いコワーキングスペースに、様々な機材を区の予算で買って投入して使えるようにしており、主にファッションテックといった服飾品のデザインや販売を、IT を使って行うといったところに特化した支援がありました。私も実は見学に行って会員になったのですが、頻繁にスタートアップ向けイベントの案内を送ってくるということがございまして、今から豊島区がそういったところを進めていったら、スタートアップを引き付けるということはかなり大変だろうなと思うところはあります。なので、やはり分野を絞って、こういう業種、こういう分野で成長を目指す方に来てくださいというような形で、分野を絞って企業の集積をするというような形で進めていただきたいと思います。特に、例えば、豊島区はマンガ・アニメとか、基本計画にも入れてやっていただいておりますが、こういったマンガ・アニメの作る側の関連産業を集積するという取り組みは、あまりされてないのかなと思います。練馬区さんとか、中野区さんとかはある程度ありますが、池袋もかなりこういった部分のブランド価値が高まっていると思いますので、マンガとかアニメとか、またその配信プラットフォームとか、関連産業としてはそのゲームの開発なども含めて、世界的にユニコーンと言われ急激な規模で成長しているスタートアップは、特にゲーム開発の分野でも輩出されていますので、そういった分野に絞っていくと、割とその池袋のブランド価値が活かせるのかなと思います。別の方法としては、東大とか理研とか、豊島区は実は交通の便も結構いいので、そのような研究機関の技術を事業化するという試みを豊島区内でやってください、というような形もあるかもしれませんが、そのようなことも含めて、ぜひターゲットを絞って実施していただければと思います。

委員： 私はピンポイントで、提案というか、意見を述べさせていただきたいです。前提として、制度融資の中で利子を区の方で負担しているというような形がありますが、昨日、懇親会に出席させていただいた際、インバウンド対策でキャッシュレス化をぜひ進めた

いというようなことを言っている人が多い印象を受けました。また、キャッシュレス化があまり進まない理由として、キャッシュレスのシステムを入れる費用や仕組みづくり、あと一番大事なことは手数料が何%かかるということで、それらが原因で躊躇をしていることが多いという話を聞きました。私が思ったことは、ハードとかシステムを補助するのは一時的なもので、キャッシュレスの手数料について、ここは区の方で条件を付すこともあるかもしれませんが、先程の制度融資の利子の負担と同じような考え方で負担をすれば、いくらかキャッシュレス化が進むのかなというところでございます。

委員： 私は商工会議所からきており、東京商工会議所の中小企業委員というのをやっていますが、もう数年参加させていただいている中で、潮目が変わってきているということを感じています。今までは確かにインバウンドとDX、それから先程おっしゃっていた事業承継といったところが主題で、あと下請け関係も根強くあるとは思っているのですが、潮目が変わっていると思うのは、先程からずっと話題に上がっている雇用だと思います。雇用の難しさというか、経営者から見ると、やはり所得給与や賃金が上がってきているということと、一方で人手不足ですね。これはものすごく深刻で、外国人の雇用の仕方をどう対処していくかということを研究しています。それで、それぞれの省庁に提案などを行っているというところなのですが、細かいところへ行きますと、まず私個人の関心として池袋西口というものを強く意識してこれから生きていかなければならないなと思っています。たまたま私の西口のサロンの裏に、ある一つのカフェができて、もともと群馬銀行があったところなのですが、池袋には今まで見たことのないカフェというか、丸の内あたりにあるようなカフェができていて、成立するのかなと思っています。その真横に、180円で生ビールを飲ませる店ができて、その間に今度はとても面白いカレー屋さんが出てきて、これらはみんなある意味スタートアップなのかなと思うのですが、それら3件がポコポコっと出てきました。また、以前からあった有名なうどん屋さんも新しいうどん屋さんになり、それなりに人が並んでいる状態です。私のところがエクセルシオールというドトール系のお店で、面積的には狭いかもしれませんが、価格が高くて、食べ物も非常に洗練されていて、ニューヨークにあるような感じのお店です。しかし当初1、2か月は全然お客さんが来なかったものの、今では並んでいる状態になっています。私が見た感じでは、「これは池袋のお客さんではないな」と思いました。変な言い方かもしれませんが、片方の180円で飲ませる店では、多分いくら飲んでも2000円を超えないというようなモデルで、その店も並んでいるのですが、店がどんどん汚くなり、店の前が真っ黒になってきたりしています。他方ではどんどん綺麗な状態になり、植栽などの変化が見られます。この変化を感じるのは、私が過剰に自分の住んでいる池袋西口に期待しているからではないかと思います。どんなまちづくりをしていくかという話題がずっと出ていますが、豊島区にはいろんな街があります。その中で池袋西口が、これからどのように発展していくのか非常に気になります。

また、昨日の区商連の会議でも話させていただきましたが、私の商店会の真横の商店会の会長が私のところに来て「引き受けてくれ」と言われました。その方は88歳なのですが、私も75歳ですからそう歳は変わりません。「いや、俺も歳だから誰もやってくれる人がいない」と言われましたが、これも事業承継なのかなと思います。「誰もやってくれないからやってくれ」と言われ、資産やお金はたくさんあると置いていただいたのですが、この商店会は1本入ったところにあり、2か月ほどでその方たち7、8人とミーテ

イングや懇談をするようになりました。そして、懇談を重ねるほどに「非常に有望な方たちだな」と思いました。潜在能力が非常にあるのに、なぜこれまでコミュニティとしてまとまらなかったのだろうと思います。その中の一人はアーティストで、焼き物を焼き、油絵を書くといった活動をされています。今回、私の方のまちかど回遊美術館とコラボしましたが、中小企業政策委員会で最大公約数的に取り組む商工会議所とは異なり、スポットで特定の現象を見える化しながら取り組んでいくという形に変化が出てきているのだなと感じます。この変化をつかんでいかなければならないと思います。

最後に、結局美しくないとは人は寄って来ないなと思います。私は、南池袋公園は大成功だと思います。昼間は多くの人たちが池袋を訪れて楽しんでいます。夜になると誰もいなくなります。先ほどの話にもありましたが、「安心して楽しく綺麗に」という環境が必要です。タバコも落ちていなくて、自転車も置かれていなくて、外国の方のマナーが悪いとは言いませんが、そのようなマナーが悪い状況を規制する必要があります。また、どこかで外国の方との調整が必要になるとも感じます。それでも、池袋西口には世界中から人が集まり、働いている人もいるし、多くの観光客が訪れてお金を落としているという話を聞きました。このような複雑な状況をうまく取り込んで、現場にいる我々のような民間コミュニティがしっかりと前に出て取り組んでいく必要があるのではないかと思います。昨日も区長にお話しましたが、ぜひそのようなミーティングを実施し、街づくりコミュニティをどう作っていくかを議論したいと思います。エリアプラットフォームは確かに牽引していますが、その中で我々も手を挙げて参加し、取り組んでいくことが大切だと思います。

また、先程お話いただいた基本構想・基本計画の受け皿は徐々に整ってきているので、これからもっと資金が必要になるでしょう。商工会議所が支援するスタートアップは時折、「盛り上がってきている企業のみをつかもうとしている」という状況が見られます。売り上げが10億円を達成したあたりで支援を開始する場合がありますが、それまではごろごろとし、急成長がはっきりするような時期まで支援しないという状況があるのかなと思います。そのような状況の中で、我々が小さな芽を現場で見つけ、仲間として育てていくという活動をしていくことが重要です。それを区も一緒に取り組むことができるようになれば非常に良いと思っています。

委員： まず、最初の「中小企業の経営基盤の強化策」というところですが、やはり賃金を上げないと社員が会社を辞めてしまうことや、転職する率が増えている状況があります。今年も、また最低賃金が上がるのではないかという見込みもあり、国の補助金を活用すれば賃金を上げる際に利用できる部分もあるのですが、国の補助金はハードルが高い場合があります。そこで、区でも賃金を上げた時に多少使える補助金を創設していただければ、企業として賃金を上げやすくなり、助かるのではないかと考えております。

次に「スタートアップ支援」という部分ですが、豊島区には社歴の長い企業が多く、代表者も二世三世の方が多くいる状況があります。そのため、若い方々がスタートアップをする場合には、若者が多い町である渋谷区を選ぶケースが少なからずあると聞いています。豊島区のイメージとして、若手を引き込むための具体的な施策を講じていただければ助かるかと思っています。

また話題は変わりますが、飲食店が非常に増え、夜は賑わいがある街になってきている点は良かったと思います。ただ、飲食店が増えた影響か、ネズミが街中を徘徊してい

る光景をよく目にするようになりました。若い店舗経営者のゴミの出し方に何か問題があるのか、コンビニの中でネズミが袋を開けて食べ物を口にしているのを見ることもあります。そのため、区役所から何らかの対策を講じていただければ嬉しいと感じております。

委員： 今、皆さんのお話をいろいろ聞かせていただいている、感じたところを申し上げさせていたいただきたいと思います。

まず、「経営基盤の強化策」というところでは、公社も今補助金はものすごいいろんな分野をやっている、豊島区も昔から非常にいろんなところ、かゆいところに手が届くような形で補助金を拡充されているなどずっと思っております。ただやはりお金は経営をしていく上ではどこでもいろんなことに必要になってくるので、結構補助金はキリがないというところもあるかなと思っております。そうなってくると制度のところ、お金の補助がそのまま一定期間の経営面で必要なお金として固定化してしまうというような状況にならないように、補助したものが自走に繋がっていく形になるように、また新しく必要な方にも補助がいくように、仕組みを作ることが良いと思います。私ども公社でも同じような課題を抱えておりますが、自走化というのはすごく必要なと思っております。そこの部分では補助金以外のフォローアップというの、一つの検討の余地があるかなと思っております。

あとスタートアップに関しましては、今、スタートアップもだいぶ馴染んできたというか、珍しくなくなってきたので、逆にいろんなところに集積があって、ここからどのようにやっていくかというところが、いろいろ余地があるのかなと思っております。私は企業人財支援課というところに4月からおりまして、一つ思ったのが、最近若い人でも、若くなくても私とかと同世代でも、スタートアップで働くとか、起業というものを仕事としていくという考え方が、そこまで特別なことではないという感じになってきているかなと思っております。そうなった時に、スタートアップで働く方の働き方の柔軟さや、住んでいる場所と働く場所が近接していることとか、そういうことを求められる方、また求めてスタートアップに行かれるという方も結構いたりします。そういうところで豊島区のような立地を活かしてですね、働きやすいというところで人を呼び込んでくることに、創業のメリットを持ってくるというのも少し一つ考え方としてあるかなと思っております。

あとは先程おっしゃっていた飲食店の話ですが、私はここに来る前には台東区の事務所におりまして、浅草みたいな古くからあるところに加え、台東区でも飲食店が最近新しく進出し、新興の飲食店がたくさん流入してきたという地域があり、そこの方と話をする機会がありました。その新しい飲食店が入ってきて、今までの商店会や地域の中小企業の方もいるので、どのように交流しているのかと聞いた際に、最初はいろいろ軋轢があったけれど、意外に新しく入ってきた方々が、先程のお話のとおり、銀行の口座開設ができないとか、銀行との付き合いがわからない、といった悩みを抱えていて、逆に古くからいらっしゃる方は当然金融機関との付き合いとかありますから、そういうところを教えてあげたりするそうです。また、逆に新しく入ってきた方々はネット販売などをちゃんと始めていて、「そういうのをよくわからないから教えてよ」といって教わるという話がありました。イベントの実行委員会などで少しずつ繋がっていき、自然的にそういう話ができたとするのは聞いたことがあって、そういう交流によってですね、

自動的に発展していくケースがあるのだなと思いました。こちらの豊島区でも、そういった繋がりを作っていく素養があるところが、他区とも似ているのかなと思いました。

会長： ありがとうございます。皆様方から様々なご意見等ございましたけれども、事務局の方で、今の段階で少しお答えしていただけるようなことがありましたら、よろしく願いいたします。

産業振興課長： 皆様、ご意見ありがとうございました。

本当に多数のご意見をいただいたので、一つ一つお答えするのはなかなか難しいですが、やはり経営支援の中でもあったとおり、補助金と融資が大きな柱になります。その中で昨年リニューアルした補助金に加えて、新たな補助金の視点というのを、皆様に伺ったのかなと思っております。補助金についても、やはり先ほど委員の方からご指摘いただきましたとおり、継続的にやっていると、結局事業者の固定的な収入になってしまいますので、それを目指しているわけではありません。一時的に例えば物価が急激に高騰したり、コロナ対策が急務となったりした場合に対する補助金、そして継続的に会社が発展していくために必要な補助金など、目的に応じた補助金というものがあると思います。こうした補助金のメニューについて、さらに検討を進めていきたいと思っております。

またスタートアップについても、皆様からご意見をいただいたとおり、豊島区の強みをしっかりと認識し、その上で豊島区にどの程度のスタートアップ支援が必要なのを見極める必要があります。他の区を真似するというのではなく、豊島区にとって必要なスタートアップ支援とは何かを改めて検討していく必要があると感じました。

すべてのご意見にはお答えできませんが、皆様からいただいた意見につきましては、これからさらに深掘りし、検討を進めていきたいと思っております。

会長： ありがとうございます。最後に、産業観光部長お願いします。

産業観光部長： 今、課長がお話をしましたけども、本当に皆様方からいろいろご意見を頂戴しました。ありがとうございました。

冒頭の説明の中で、今回基本計画を作りまして、その中でまちづくりの大きな柱の一つとして、産業と観光を推進していくということで、この4月から産業観光部が立ち上がっております。産業と観光を両輪として取り組んでいこうというところですが、今日の内容も、皆様方にご意見をいただいた既存の事業をどうしていくのか、そしてスタートアップという新たな取り組みにチャレンジしていきたいということで、いろいろとご意見をいただきました。私たちとしても、産業観光部となりましたことで、機動性を持って進めていこうという方針のもと、自治体や関係機関と連携しながら、この4月から活動しております。やはり実際に現場を見ることで、現在の状況が非常に明確にわかるようになったと感じております。

特にスタートアップについては、働き方の変化やその他の部分においても、多くの刺激を受けるところがありました。そんな中で皆様方から、人材に関するお話や人流分析についてのご意見、また何かを進める際には業界を絞って取り組んだ方が良いのではないかというご意見を頂戴しました。まさしくその通りだと感じております。まちの状況

は、生き物のように絶えず変化しているのと同様に、社会経済状況も変化していきま  
す。それぞれの時代によって課題は変わるものだと考えております。もちろん基盤とな  
る施策は継続して推進すべきだと考えていますが、豊島区の特性を生かして、際立った  
政策を何か打ち出せないかという点について、今年度、職員とも議論しながら検討して  
いるところです。そんな中で、本当に皆様方からいただいた貴重な意見をこれから取り  
入れつつ、豊島区の産業振興がどうあるべきかをしっかりと考えていきたいと思ってお  
ります。

また、産業だけでなく観光についてもお話ししましたが、インバウンド需要が非常に  
増えてきている中で、いかにインバウンドの方々に区内でお金を落とさせていただけるか  
という課題がございます。この点については、観光部門とも連携しながら取り組んでお  
ります。特に商店街については、現在、活気のあるところとそうでないところが分か  
れてしまっている状況がございますので、活気のない場所にも一定のチャンスがあるの  
ではないかと考えています。その可能性を探りながら、インバウンド対策をしっかりと進  
めていきたいと思っております。

ぜひ皆様方からいただいた貴重なご意見を活用させていただきたいと思います。あり  
がとうございました。

会 長： ただいま多くの方から意見をいただきましたが、若干お時間がございます。委員の方  
や部長のご意見を受けて、もう一言言いたいとか、気づいたことがあるという方がいら  
っしゃいましたら、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委 員： 戦後というか、昭和というか、池袋ももう区政が何十周年か、正確にはわかりませ  
んけれども、老朽化が進んできている状況だと思えます。商店街も豊島区内に 57 ほどある  
と聞いておりますが、これが減ったのか増えたのか、その辺りは定かではありません。  
また、昨日も区商連の会議がありましたが、商人祭りができる商店街と、できない商店  
街がありまして、加盟している商店街の中には、ほとんど老朽化したビルが不動産業の  
ようになってしまっているところが多いのが実態です。この状態で、これからの大規模  
な開発に乗って大きく成長する部分もあれば、そうはならない部分もあるでしょう。そ  
の商店街の人たちに対して、何か新しい補助や指導などの支援をする必要があるのでは  
ないかと思えます。国がどのように考えているのか、「ウォークブル」という言葉や「ま  
ちづくり」という概念が出てきていますが、地域間競争があるのは確かだと思います。  
渋谷や新宿と競い合うような形にはならなくても、池袋には非常に大きな可能性がある  
と思うのです。池袋のことばかり話してしまうと、大塚や巣鴨、目白といった地域に何  
か言われるかもしれませんが、それを踏まえた上でも、池袋にはこれからさらなる発展  
が見込めるのではないかと思います。そのような状況を踏まえ、老朽化対策という点  
で、まちがよみがえるような取り組みが必要ではないでしょうか。それが、長い目でま  
ちの構造を変えていくような動きにつながり、結果として産業や観光振興にもなるの  
ではないかと考えています。

少し抽象的な話になってしまい申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

委 員： 先ほど時間の関係もありましてお話しできず申し訳なかったのですが、やや気になっ  
ているというか、我々の方も、自分の団体の中でうまくできているのかというところが

あります。

区内で新しく起業された方で、特に例えば池袋ではマンガ・アニメ関連産業が盛んで、いろんなショップなどもできていますけれども、そういった方々の声をどれぐらい現状で拾えているのかというのが、よく把握できていないところがあります。例えば商店会という組織があるところであれば、今日もいらっしゃいますけれども、そういった組織を通じて声を拾うことができると思うのですが、多分新しく起業された方々はあまり組織化されていないのではないかと思います。他方、新規産業を伸ばしていくということは、こういった新しく起業された方々の声をしっかり拾って、成長していただけるような政策をとる必要があると思います。それから、新しく起業された方々の声を、より組織的に拾える仕組みというのは、何か作っていくべきなのではないかとも考えるところです。これは思いつきの話で恐縮ですが、例えば、これを言うと怒られてしまうかもしれませんが、商店会はなかなかその加盟店舗の数が減りつつあるという話もあります。その一方で、新しく起業された中には、例えば商店会がまったく存在していない地域で、アニメマンガショップが集積されている例があるとしたら、そういう方々を商店会に類似した形の組織としてまとめたり、もちろん加入する意思がある方だけという形にはなるとは思います。そういう組織を作って、そこに例えば既存の商店会の枠組みと同じような補助や支援をすとか、あるいは意見を聞いたりするなどの方法が考えられるのではないかと思います。

私としてはあまり実情がわかっていない中での思いつきの提案になってしまいますが、新しい産業を支援していくためには、こうした取り組みが必要なのではないかと感じています。もし何かご意見や感想がある方がいらっしゃいましたら伺えればと思っています。

#### 【その他】

会 長： ありがとうございます。では、皆様方からご意見いただきましたが、そのご意見ご提案につきましては事務局を中心に今後検討をしていただきたいと思いますというふうに考えております。最後でございますけれども、次第3のその他について、事務局の方より説明をお願いいたします。

産業振興課長： それでは、参考資料7の商工政策審議会スケジュールをご覧ください。

産業振興指針は昨年策定し、10年計画ということで10年間分のスケジュールを組んでおりますけれども、今期の第7期につきましては、左下の方全4回の開催予定というように記載しております。四角の中に第1回・第2回ということで記載がありますが、次回の第3回につきましては、令和8年の2月頃の開催を予定しております。また、本日いただきましたご意見ご提案につきましては、今後の施策にどのように反映させたかについてですね、次回の審議会にてご報告をさせていただきたいと思います。これから、予算の査定が始まり、その中で実現できるものと実現できないものが出てくるかと思いますが、結果についてはご報告をさせていただければと思います。また、次回の日程につきましても、改めて皆様にご案内を申し上げたいと思います。

最後に、今後の事務局からの資料の共有などは、原則として電子メールにて行わせていただきます。メール以外の方法をご希望の委員の方におかれましては、審議会終了後に事務局までお話いただけますようお願いいたします。

以上、事務局からのご連絡でした。

## 【閉会】

会 長： 本日様々なご意見がございましたけれども、皆様方のご意見を伺っていると、大体三つぐらいに集約できるように思います。

一つ目は事業承継をどうするかというお話でした。この事業承継には様々な意味があるかと思います。実際に代々継いでいくというパターンもありますし、全く異なる人に事業を引き継ぐという形もあります。豊島区が考える事業承継とは具体的にどのような形を採ろうとしているのか、そのイメージを具体的に作ることによって事業承継の政策の立て方も変わってくると思います。その点について、皆さま方のご意見は非常に良いものだったのではないかと思います。

二つ目は中小企業の経営基盤についてです。これも何を指して経営基盤と言うのが問題です。黒字になることが経営基盤ということでしょうか、あるいは事業承継をしっかり行うことが経営基盤の強化に繋がるのでしょうか。また、先ほど「社歴」という言葉がありましたけれども、豊島区で長くその会社やお店を運営していただくことが経営基盤の強化に繋がるのでしょうか。このように、経営基盤が具体的に何を指しているのか、そしてどういう経営基盤の強化が求められているのかを明確にしていくことが非常に重要ではないかと思います。この点についても委員の皆さまから意見があったかと思えます。

三つ目はスタートアップについてです。このテーマについても多くの意見がありました。豊島区としては、起業支援を含めてスタートアップ支援を進めるという方向性が示されていましたが、多くの委員の方々から、「豊島区ならではのスタートアップとは何か」という明確なビジョンを示すべきだという意見がありました。それが他の地域との差別化にも繋がっていくというお話であったかと思えます。もう一つ大事なものは、スタートアップというのは創業させるところに重きを置いているようなイメージですが、大事なものは、創業した後に持続可能な経営基盤を作らせていくということです。やはり作って終わりではなく、3年、5年、10年と続いていくところまでの支援も含めて、「スタートアップ支援」としていくことも大事ではないかと思います。そのためには、作られた商品やサービスを幅広く多くの人たちに知っていただく、あるいはそれを手に取っていただくということも必要になっていくのではないかと、というご意見も多数あったのではないかと思います。

最終的には、中小企業の経営基盤強化、事業承継、スタートアップ支援を含めて、「豊島区とはどういう区なのか」という具体的なイメージ作りに繋がっていくのではないのでしょうか。「豊島区といえばこれ」という明確なメッセージがあれば、それに共鳴・共感する人や企業が豊島区に集まり、豊島区の活性化に繋がるのではないかと思います。やはり、豊島区というものに対するイメージ作りというものを、様々なアプローチから進めていくことも大事じゃないかなと思った次第であります。いずれにせよ、先ほど出た言葉「ピンチはチャンス」という考え方がありますが、この豊島区が置かれている状況というのは決してピンチと思いませんけれども、様々なチャンスに繋げていく、そのためにも地域のリソースというものをいかに活かしていくのか、というところが今後大事になるのではと考えております。

本日は限られた時間ではございましたが、多くの委員の方々から大変貴重なご意見を

いただきまして、ありがとうございました。

産業振興課長： では、以上をもちまして、令和7年度第2回豊島区商工政策審議会を閉会いたします。ありがとうございました。